

<過去2週間の動き>

(3月29日～4月11日)

USD/TRY: 14.5500～14.7650

TRY/JPY: 8.26～8.57 (参照値)

過去2週間のトルコ・リラ相場は、29日に明確に水準を切り上げた後は方向感を欠いた横ばい。横ばいと言っても、対ドルではほぼ一貫した軟調推移を続けた一方、並行して対ユーロではほぼ一貫した堅調推移。この間の値動きは主にドル高と言えた。29日のリラ急上昇に関しては、これと言って特段のリラ買い要因も見当たらない中、14.80台から局面の高値14.5500まで(対ドルで+1.7%)は僅か1時間余りの急上昇で、何かしら「不自然」な売買が疑われた。翌週の後半(7日)になって、市場の一部で、トルコ国営銀行によるリラ買い(実質的な為替介入)が観測されたのは、「案の定」というべきだったか。その意味では、11日に観測された一時的なリラ上昇も、「介入」の可能性が疑われたが、真相は定かでない。この間発表されたトルコ経済指標は、2月貿易収支の明確な赤字、CPIのもう一段の上振れ、2月経常収支の4ヵ月連続赤字など、いずれも市場予想に沿った悪い数字が並んだ格好だったが、リラが特段材料視した様子は見受けられなかった。他に、トルコ固有の注目要因として、トルコ中銀による3月CPIの分析(5日)やエルドアン大統領による改正選挙法署名(6日)などがあったが、リラが材料視した様子は、やはり読み取れなかった。

<過去2週間に発表された主要経済指標等>

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
3/31	7:00	貿易収支(USD)	2月	-7.88bn	-8.10bn	-10.26bn
4/4	7:00	CPI(前年比)	3月	+61.14%	+61.50%	+54.44%
4/8	7:00	期待インフレ率(12ヵ月)	4月	+28.41%		+26.43%
4/11	7:00	経常収支(USD)	2月	-5.15bn	-5.30bn	-6.98bn
	7:00	失業率	2月	10.7%		11.2%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

<向こう2週間の見通し>

(4月12日～4月25日)

USD/TRY: 14.600～15.000

TRY/JPY: 8.25～8.65

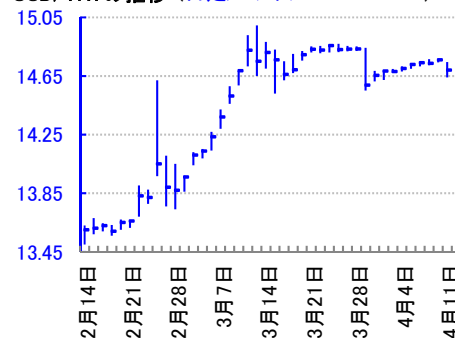
向こう2週間のトルコ・リラ相場は、基調は(対ユーロも含め)軟調、仮にリラ反発があれば「介入」を疑うという現状の継続を予想。2月貿易/経常収支に明らかのように、エルドアン大統領が推進した低金利とリラ安による輸出主導の経済成長は、現在までに完全に頓挫したと言える。ウクライナ戦争が燃料/食料価格を大幅に押し上げ、トルコからのロシア/ウクライナ向け輸出をほぼ壊滅し、ロシアからの観光客を激減させたのは、エルドアン大統領にとって不幸なことではあったものの、そもそも、リラ安が相応の輸出競争力をつけ、相応に内需を抑制したとしても、前年比+50%を超えるような高インフレ(生産コスト押し上げ要因)を抑制できなければ、一時的についた競争力などすぐに拭われてしまうはずだった(物価差を上回るリラ安が続かなければ)。また、高インフレを放置して、トルコ家計の購買力を抑圧することは、そのこと自体が(新興国としては)消費主導の経済成長に頼るトルコ経済にとっては成長阻害要因でもある。実質的な資本規制導入(非居住者による機動的なリラ売りの封印)で、対内証券投資が概ね枯渇した状況で、経常収支が赤字定着するとしたら、まとまったリラの買い手は為替介入ぐらいしか考えられない。その原資(外貨準備)が底をついた現状は、まさに、リラ安以外の方向感が、短期的にも、中期的にも描けない状況と言えるのではないかと。更に、このままリラ安基調が定着すれば、いずれ、昨年末に導入した為替損失補填リラ預金の損失補填を次々と発動し、財政ファイナンス(リラ増発)がリラの信任を一段と損ない、更なるリラ安を招く悪循環への突入も、十分に現実味のあるリスクとして警戒されよう。

<向こう2週間に発表予定の主要経済指標等>

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
4/12	7:00	鉱工業生産(前年比)	2月		+7.5%	+7.6%
4/14	11:00	1週間物レボ金利			14.00%	14.00%
4/15	8:00	財政収支(TRY)	3月		+69.7bn	
4/25	7:00	設備稼働率	4月		77.3%	

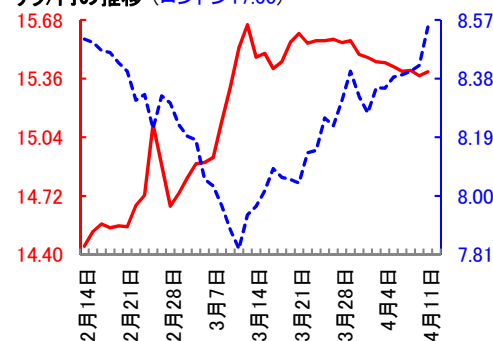
(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

USD/TRYの推移(日足/ロンドン 7:00～17:00)



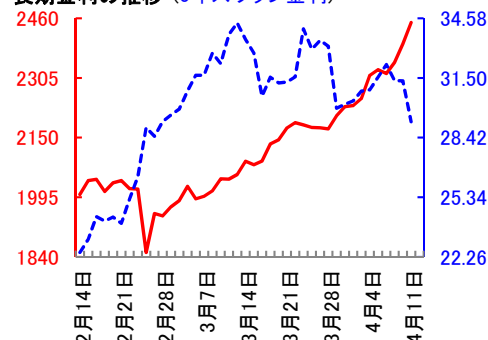
バスケット/リラの推移(トルコ中銀公示)

リラ/円の推移(ロンドン17:00)



株式市場の推移(ISE 100種指数)

長期金利の推移(5年スワップ金利)



(資料: トルコ中銀/トムソンロイター/ブルームバーグ)

トルコ関係主要経済指標

1週間物レボ金利		14.00%
成長率(GDP/前年比)	Q4	+9.1%
失業率	1月	11.4%
消費者物価(前年比)	3月	+61.14%
鉱工業生産(前年比)	1月	+7.6%
小売売上高(前年比)	1月	+7.9%
貿易収支(USD)	2月	-7.88bn
経常収支(USD)	2月	-5.15bn

<お知らせ>

英休日のため次回の「トルコ為替週報」は4月26日の発行を予定しております。ご迷惑をお掛けしますが、よろしくご諒ください。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。